

南半球一周クルーズ報告 Vol. 4
～アザラシの群れからカーニバルまで～

山岸敏夫（11組）

南半球一周クルーズの前半のイベント、リオのカーニバルが過ぎ、今日（2月17日）から大西洋を横断しアフリカへ向かいますので、続きの投稿をします。

2月6日：10日前の南米最南端の街ウシュアイアは真冬の寒さだった。

その後の寄港地、初夏のような日差しのアルゼンチンのプエルトマドリン（Puerto Madryn）は世界遺産に登録されているバルデス半島への拠点。その半島へはバスで1時間半、低い草木ばかりの殺風景が続くが、突然バスが停車、窓の外にはグアナコ（Guanaco、ラクダ科の動物）が。そして、目的地に降り舗道を数分進むと、見下ろす海岸壁の下にはアザラシの群れが青い海と対照をなしていた。（写真）

次の寄港地まで終日航海が続くので、船内で自主企画された27組の中間発表会では、大人の学芸会と割り切り、私はフランス語で歌う「愛の讃歌」に参加した。

2月9日：ブエノスアイレスに到着。治安が悪いので気を付けてとのことで、それなりに用心し、サン・マルティン広場から五月広場まで汗だくになって街歩きを楽しんだ。やはり、観光客が訪れる場所は美しいが、通貨が弱いのでいたるところで両替の呼びかけがうるさい。

2月10日：ウルグアイのモンテビデオ（Montevideo）に寄港。ここでは郊外のワイナリーで試飲とディナーを。収穫期でメルローとシャルドネ用のブドウ粒も試食させてもらったが、双方甘く房のままでも商用になるのではと。

ワインは当然、防腐剤が入っていないので美味しい。ウルグアイ産のワインは日本に入っていないのではないか。

ウルグアイといえば、ホセ・ムヒカ（Jose Mujica）元大統領を唯一知っている。

「貧乏な人とはいくらモノがあっても満足しない人のことだ」などの言葉を残している世界一貧しい大統領と言われた彼は昨年5月に89歳で亡くなった。

2月13日：とうとうブラジルに入った。まずはサントス（Santos）。巨大な港湾都市は日本人移民が最初にたどり着いた場所で、ゴンザガビーチの一角に上陸記念碑があった。神戸にブラジルを指さした記念碑があるとの説明があったので、帰ったら探してみよう。

2月15日：南米訪問最終地のリオデジャネイロの到着日はコパカバーナ（Copacabana）ビーチの街歩きをしたが、いたるところ半ビキニで歩く老若男女でお祭り一色。ディナーは



バルデス半島のアザラシ

シュラスコレストランで。

翌日夜のカーニバルは想像以上の熱気。ラテンサンバとは身体に響き渡る音楽と壮大な山車と踊る人、見る人、さすが世界一のお祭り。
ラテン人は楽天（ラクテン）的と言われるが、ラテンにはク（苦）がない。



リオデジャネイロのビーチにて



リオのカーニバル

2026年2月17日記

以上